

第22回慶應医学賞受賞者決定

慶應医学賞は、世界の医学・生命科学の領域において医学を中心とした諸科学の発展に寄与する顕著かつ創造的な研究成果をあげた研究者を顕彰するもので、1996年より39名の研究者に対して授与されています。第22回を迎えた今年の慶應医学賞受賞者は小川誠二博士(東北福祉大学感性病研究所)、John E. Dick博士(トロント大学分子生物学教授、プリンセスマーガレットがんセンター)の2名に決定し、慶應医学賞審査委員会は下記のとおり授賞理由を発表しました。

本賞は、世界十数カ国の著名な研究者および研究機関から推薦された候補者の中から、学内外約90名の審査員による厳正な審査を経て、受賞者を決定しています。受賞者を



副院長
臨床研究(推進、管理)担当
先端医学研究所
遺伝子制御研究部門教授
佐谷 秀行
(60相当)



副院長
(医療連携、資材最適化、
病院機能評価担当)
泌尿器科学教授
大家 基嗣
(66回)



病院長
外科学
(一般・消化器)教授
北川 雄光
(65回)



副院長
(病院運営(外来、患者
サービス、広報担当)
精神神経科学教授
三村 将
(63回)



副院長
(病院運営(入院、救急、
手術)、国際対応担当)
整形外科科学教授
松本 守雄
(65回)



副院長
(医療安全(管理、教育)、
診療録管理監査担当)
小児科学教授
長谷川 奉延
(63相当)

8月1日より、北川雄光新病院長のもと新しい病院執行部が立ち上がり、6人の副病院長が選任されました。新病院体制の顔ぶれを紹介するとともに北川病院長の抱負を掲載します。

慶應義塾 新執行部発足

病院長就任のご挨拶 次期100年に向けた 大学病院の新しい「形」



副病院長
(情報管理(情報システム、
個人情報)、IT連携担当)
放射線科学教授
陣崎 雅弘
(66回)

病院長 北川 雄光(65回)

新病院1号館建設の「未来への糧」を耳にした。今年5月に医学部開設100年記念シンポジウム「記念式典と記念祝賀の盛大な日」と行われ、医学部病院が次の100年へ歩み出す中、8月1日、北川病院長が拜命されました。身にあまの光栄と存じておられます。北川病院長は、ご自身の「病院長としての責任」とともに、重責を担ってくださることを願っています。

2020年4月に予定された新病院の外構整備も含めた新病院のグランドオープンに向けて、教職員一同の期待が大きき限りです。あらためて新病院建設という大事業に格別のご支援をくださったすべての皆様へ、心から感謝の意を表したいと思います。慶義が世界の先導者としての道を歩む中で、医学部・病院は近代医学

**fMRIを開発した小川博士と
がん幹細胞を同定したディック博士**

慶應医学賞は、世界の医学・生命科学の領域において医学を中心とした諸科学の発展に寄与する顕著かつ創造的な研究成果をあげた研究者を顕彰するもので、1996年より39名の研究者に対して授与されています。第22回を迎えた今年の慶應医学賞受賞者は小川誠二博士(東北福祉大学感性病研究所)、John E. Dick博士(トロント大学分子生物学教授、プリンセスマーガレットがんセンター)の2名に決定し、慶應医学賞審査委員会は下記のとおり授賞理由を発表しました。

本賞は、世界十数カ国の著名な研究者および研究機関から推薦された候補者の中から、学内外約90名の審査員による厳正な審査を経て、受賞者を決定しています。受賞者を



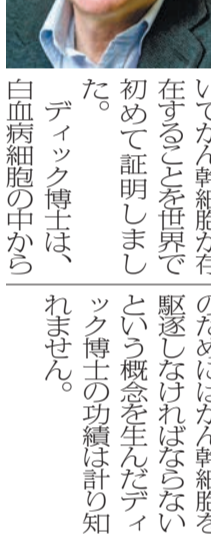
小川 誠二博士
東北福祉大学感性病研究所
特任教授

小川誠二博士は、脳血流中の酸素濃度を核磁気共鳴画像法(MRI)で撮像できることを発見し、BOLD(Blood Oxygenation Level Dependent)信号を用いて、脳血管活動を同時に観察・解析しています。解析技



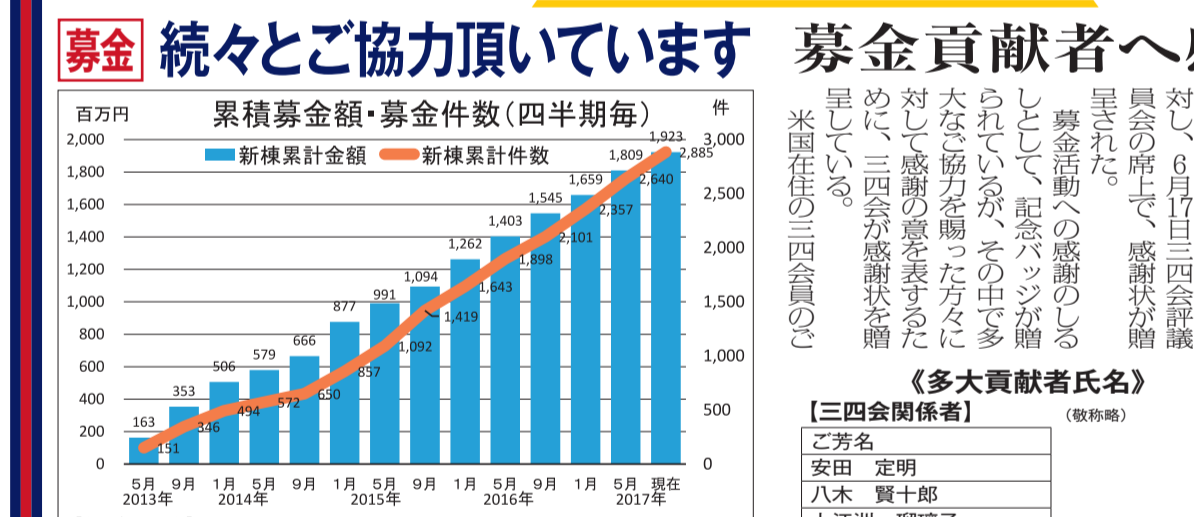
John E. Dick博士
トロント大学 分子生物学教授、
プリンセスマーガレット
がんセンター(カナダ)

活動部位を撮像できることを実証し、機能的MRIの基本原則を確立しました。機能的MRIを用いることで、放射性同位元素などを用いることなく、ヒト脳活動を非侵襲的に繰り返し撮像することが初めて可能となりました。機能的MRIには全身の活動を撮像できる特徴があり、部位ごとに異なる機能に開くことで、脳機能高を調べるだけでなく、広範囲の脳活動を同時に観察・解析しています。解析技



John E. Dick博士
トロント大学 分子生物学教授、
プリンセスマーガレット
がんセンター(カナダ)

新病院棟建設



募金貢献者へ感謝状を贈呈

新病院棟の建設が次第に眼前に迫る中、募金活動も四半期ごとに進捗を報告しています。6月17日(四半期)の時点で、感謝状を贈呈された募金活動への感謝状を贈呈された。

【(三)四関係者】 (敬称略)

ご芳名	安田 定明
	八木 賢十郎
	上江洲 瑠璃子

【(三)四関係者】 (敬称略)

ご芳名	大塚 宣夫 (45回)
	宮田 義之 (62回)

【(三)四関係者】 (敬称略)

ご芳名	大塚 宣夫 (45回)
	宮田 義之 (62回)

【(三)四関係者】 (敬称略)

ご芳名	大塚 宣夫 (45回)
	宮田 義之 (62回)



感謝状贈呈式出席者

立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センター(産学連携)と共同で、がん幹細胞の同定に成功しました。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。

がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。がん幹細胞の同定は、がん治療の新たな突破口を開くことが期待されています。